

# しあわせのヒミツ～サモアからのおくりもの～

実践場所	加賀市立分校小学校（石川県）	実践者	東 春奈
対 象	全校児童（保護者、地域の方）		
実践教科	学活、道徳（全6時間）		
ねらい	<p>○サモアという国を知ることによって世界の多様性を感じ、異文化に興味・関心を持つことができる。</p> <p>○文化や価値観が生活様式に影響していることを知り、多様な生き方を認めることができる。</p> <p>○サモアと日本の生活を比較することで違いを知ると共に、自己の生活を振り返ることができる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>【サモアとつながろう】</b> ・サモア独立国について知る ・サモアについて知りたい、見たいこと等を考える。 ・サモアの子ども達にプレゼントを作る。 自己紹介や日本の歌のビデオ撮影をする	5・6年（学活） 1コマ×2学年 パワーポイント ほけんだよりで他学年にも周知
	2	<b>【サモア行ってみたらホントはこんなトコだった！】</b> ・サモアに関するクイズに答えながら、サモアという国を知る。 ・プレゼントや歌が届いたことを知り、つながりを感じられる。 ・サモアの物に触れたり、身に付けたりしてサモアを体感する。	全校（学活） 1コマ×6学年 カードアクティビティ パワーポイント サモア民芸品
	3	<b>【サモアンブース@文化祭】</b>	
	4	<b>【サモアふしぎ発見！】</b> ・サモア民芸品の展示・紹介コーナー ・サモア○×クイズ	児童・保護者 パワーポイント サモアBOX
	5	<b>【命を育む食～ところ変われば食も変わる～】</b> ・日本とサモアの伝統料理を比較し、それぞれの特徴を捉える。 ・バランスの良い食事や健康的な食習慣とは何か、地産池消について考える。	4・5年（学活） カードアクティビティ パワーポイント サモアBOX
	6	<b>【しあわせのヒミツ～サモアからのおくりもの～】</b> ・日本とサモアの文化の違いを知り、世界の多様性を感じられる。 ・生活様式の背景には価値観や文化が影響していることを知る。 ・自分にとっての幸せ（豊かさ）とは何かを考える。	5年（道徳）
備 考			

## 授業実践の詳細

### 1 時限目 ▶▶▶ 「サモアとつながろう」(5・6年:1コマ×2)

#### ねらい

- ・未知なる国への興味関心を持つことや、自分達が作ったプレゼントやメッセージが実際にサモアの子ども達に届くことへの期待感が高まることで、今後の国際理解教育に主体的に参加できるようになる。

### 1 子どもの活動の流れ

- ①サモアの基礎情報を知る。  
(位置、面積、人口、気候、言語等)
- ②サモアの見たいもの、知りたいことを考える。
- ③・サモアの子どもへのプレゼントを作る。
  - ・自己紹介、プレゼント紹介のビデオ撮影をする。
  - ・日本の歌を合唱する様子をビデオ撮影する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇外国の暮らしや祭りを取り上げたテレビ番組を好んで観ている児童が多く、以前から外国への興味関心が高かったようで、たくさんの質問があがった。
- ◇日本語や外国語活動で学んでいる英語、新しく知ったサモア語を使い、プレゼントを作ったり、自己紹介したりすることで、自分発信で外国の人々とコミュニケーションがとれるという可能性を感じることができたのではないかと思います。
- ◇自主的に地図やインターネットでサモアについて調べた児童もいた。しかし、情報がなかなか得られなかったようで、「先生に調査してきて欲しい！」と目を輝かせていた。

### 3 使用した教材

- 〈教材1〉パワーポイント
- 〈教材2〉質問用紙



メッセージカード、びゅんびゅんごま、折り紙など

#### サモアってどんな国？

(1) サモア独立国(基本情報)

- 面積: 約2800km<sup>2</sup> (加納市の約7倍)
- 人口: 約20万人(加納市の約3倍)
- 気候: 一年中夏(高温多湿)
- 言語: サモア語、英語

海にかこまれた南の島

(2) サモアについてどんなことが知りたいですか?  
(食べ物、家、服、好きなスポーツ、夢など、なんでも構いません)

《5・6年生の見たいもの・知りたいこと》

- 衣食住、家族、動物、伝統文化、学校、スポーツ、遊び、
- 自慢したいこと、困っていること、日本について知っていること
- 雪を見たことがありますか? ・将来の夢は何ですか?
- ・お母さんは何人いますか? ・お見合い結婚ですか? など。

(3) 日本文化を紹介しよう! (ひとりひとつ作ってみよう!)

## 2 時限目 ▶▶▶ 「サモア行ってみたらホントはこんなトコだった!？」 (全校児童: 1コマ×6)

### ねらい

- ・サモアと日本の生活様式や文化の違いを知ること、世界の多様性やおもしろさに気づくことができる。
- ・現地のモノに触れ、体験してみる。

### 1 子どもの活動の流れ

- ①カードアクティビティ
- ②分校小発サモア行の旅 (Google Earth)
- ③サモアクイズ (フォトランゲージ、モノランゲージ)
- ④サモア民芸品に見て・触れて・感じる

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇日本とサモアの対照的な事柄を挙げたカードアクティビティを導入に使ったことで、ゲーム感覚で予備知識を与えることができ、その後に写真や動画を使ってスムーズにより詳細な説明をする事ができた。また、話し合う雰囲気作りにもなり、活発な感想や疑問、質問発表につながった。
- ◇Google Earth で作成したビデオを用いて小学校からサモアの首都アピアまでの道程を一緒に辿ったことで、その位置関係や交通の不便さ、島嶼国であることなどを感覚的に捉えられたのではないと思う。自宅で保護者と一緒に Google Earth で「何回もサモアに行ったよ!」という1年の児童もあり、興味を引くツールであると感じた。
- ◇最初に写真を見せると、壁のない家ファレに住むことをかわいそうと言ったり、サモアの男性はスカートをはくことに驚いたりしていたが、サモアは一年中蒸し暑いことを知った上で実際にラバラバを巻いてみると、風通しの良さを体感し、住居や伝統衣装は気候に合った理にかなったものになっていることがわかったようであった。
- ◇サモアの民芸品を実際に触れたり、身に付けたりすることで、サモアの文化をより身近に感じられたようである。

#### 《児童の感想》

##### ○1年

- ・なつかないなんてしりませんでした。だからおしえてもらってよかったです。
- ・サモアでは、いえにかべがないなんてしんじられなかったです。
- ・サモアはにほんどちがって、おとこの人もスカートをはいていたのを見ておもしろかったです。

##### ○2年

- ・サモアのひとはなんでもつくるからすごかったです。
- ・日本とサモアは、くらしかたがとってもちがうことがわかりました。
- ・サモアの人はずいぶんてつくるものが多いんだなとおもいました。

##### ○3年

- ・サモアに行って、バナナやイモがなっているところを見たいです。
- ・サモア人はみんなが友だちのようにえがおでした。



・家にかべがないなんて信じられないけど、とっても楽しそうな国だと思いました。

○4年

- ・サモアの人食べるじゅん番が大人が先に食べて、子どもがあまったものを食べるなんてビックリしました。
- ・サモアの家にかべがないのはきけんな動物がないからなのかなと思いました。
- ・サモアの人はやせている人が多いと思ったけど、太っている人が多いことがわかりました。

○5年

- ・はく手でリズムがとれてすごかったです。
- ・サモアはとても自然にやさしい物を使って使っていると思いました。
- ・うちわやかごをヤシの葉で作っているのを見て、日本とちがうけど、にているところもあったのでうれしかったです。



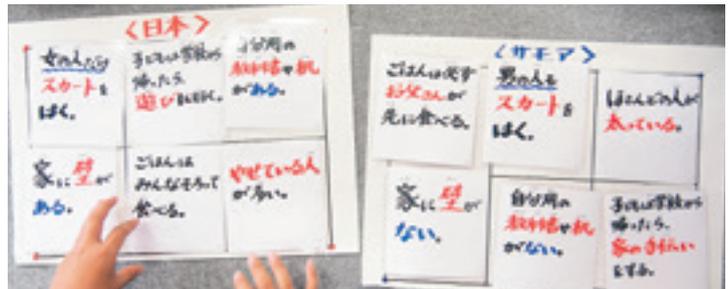
○6年

- ・ぼくたちのつくったものをよろこんでくれてうれしかった。
- ・やさしそうな人ばかりで行ってみたいになりました。日本文化を知ってもらって仲良くしたいと思いました。
- ・モアはすごくまずいイメージだったけど、みんなで支え合っていてすごいと思いました。子どもが家事をするなんてびっくりしました。

3 使用した教材

〈教材1〉カードアクティビティ

〈教材2〉サモアクイズ



〈教材3〉サモア民芸品(ラバラバ、ヤシの葉のうちわ、かばん、帽子、財布、ココナッツのアクセサリなど) サモアの子どもの絵



## 3時限目▶▶▶「サモアンブース@文化祭」

### ねらい

- ・児童だけでなく、保護者・地域の方にもサモア文化に触れてもらうことで、本校が取り組んでいる国際理解教育の理解を図り、家庭での話題となるきっかけ作りをする。

### 1 子ども、保護者、地域の方の活動の流れ

- ①サモア民芸品の展示・紹介コーナー
- ②伝統衣装ラバラバ、アロハシャツ試着体験
- ③サモアンパネル写真撮影コーナー

### 2 子ども、保護者、地域の方の活動の成果・反応

- ◇児童は、授業時間内ではじっくり見られなかった写真やいろいろなサモアの民芸品を手に取ってゆっくり見たり、質問したりでき、より理解が深まった。日本にはないものや、似ているものがある等と日本と関連付けて考えられたようである。
- ◇保護者の方と直接会話できたことで、以前の授業が児童の口から家族にも伝えられ、家族でサモアについて話したり、調べたりする機会があったということがわかった。
- ◇「貧しい、危険とかマイナスイメージしかなかったけど、“発展途上国”の捉え方が変わったわ。」「テレビの中の人じゃなくて、先生が行ったから子どもに伝わるんやね。」などの感想をいただき、実際に見聞きしたからこそ伝わるがあると実感できた。物質的豊かさ、心の豊かさについてまで話す機会を持つことができた。

### 3 使用した教材

〈教材1〉サモアBOX（JICA関西より貸与）、サモアの民芸品

〈教材2〉サモア写真



〈教材3〉あっという間に南国気分♪サモアンパネル（3人が顔を出して写真撮影できます）

〈教材4〉割り箸ファレ「こんなおうちにすめる〜ん!？」と驚きながら手に取る児童。



## 4 時限目 ▶▶▶ 「サモアふしぎ発見！」

### ねらい

- ・サモアの民芸品を見て触れることで、体験的にサモア文化の理解を深められる。

### 1 子ども、保護者、地域の方の活動の流れ

- ①サモア〇×クイズ
- ②アヴァってどんなもの？（アヴァ：こしょう科の根の粉を水で溶いた飲み物）

### 2 子ども、保護者、地域の方の活動の成果・反応

- ◇「トイレを流すとメダカが出てくることがある」の〇×問題では、信じられない顔を見せながらも全員が〇サインを送ってきた。サモアは水道設備が整っておらず、雨水を貯めて使用している地域も多いと知り、蛇口をひねれば水が出てくることが当たり前でないことを知った。
- ◇サモアのナイロン袋はトウモロコシからできていて半年で土に還るので、環境や海の生物にも優しいことを知り、「日本もトウモロコシで作ればいいのに。」と言っていた。日本の方が技術的には進歩しているが、その技術をどう使うかということも大切であり、サモアに見習うところもあると感じたようであった。
- ◇「サモア人は熱中症にならないのですか？」という質問に対して、「1年中夏で体が熱さに慣れていることや、家に壁がなかったり、伝統衣装ラバラバを着ることで風通しが良く、暑さ対策の工夫ができていますから大丈夫です。それより、太っていることでいろいろな病気になってしまうのがサモアの人の健康の大問題になっています。」と答えた。ちょうどラバラバと特大サイズのアロハシャツを試着したまま話を聞いていた児童がいたので、着心地を伝えてもらったり、サモアの人がどれ程の体格か示してもらったりでき、伝わりやすかったのではないかと思います。
- ◇アヴァに粉くずがたくさん浮いているのをみたり、匂いを嗅いだりして、これがおもてなしの飲み物だとは思えないといった反応だった。衛生面が保証できないのでアヴァの試飲やタロチップスの試食体験が叶わなかったのが残念だった。

### 3 使用した教材

〈教材1〉サモアBOX民芸品



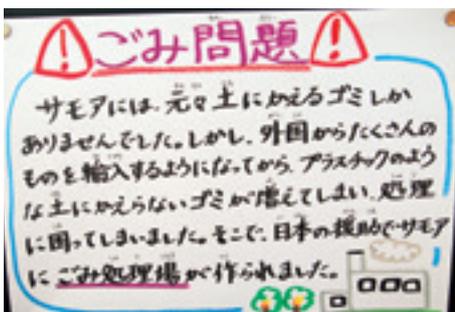
アヴァの器とコップ



フエ（魔よけの儀式の道具）



サモアの箒



サモア人のお面を付けて  
なりきりお掃除隊。  
「サモアのしぜんはオレがまもる！」

アヴァの匂いをクンクン。  
「え〜！こんなものめる〜ん!？」

# 5 時限目 ▶▶▶ 「命を育む食～ところ変われば食も変わる～」(4・5年:1コマ×2)

## ねらい

- ・日本とサモアの食生活を比較し、それぞれの特徴を知る。また、サモアの食の問題点やその解決策を考え、表現することができる。そして、自己の食生活を振り返り、健康的な食を選択できる。

## 1 子どもの活動の流れ

- ①カードアクティビティ
- ②サモアの伝統料理ウムの作り方
- ③サモアの食生活の変化と健康問題
- ③サモア人の食生活アドバイザーになろう！
- ④地産地消の大切さ

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇担任にサモア人役を演じてもらい、児童はサモアの食生活の問題点とその解決策をアドバイザーになったつもりで発表した。担任からの揺さぶりにも屈せず、健康的な食生活に必要な事柄を的確にアドバイスできていた。
- ◇伝統を守っていくことの大切さと輸入品の利便性との兼ね合いの難しさを児童なりに捉えられたのではないかと思う。
- ◇サモアと同じように日本も食の欧米化が進んでいることを児童はあまり実感できていないようで、地産地消の大切さとの関連や意味づけが弱くなってしまった。

### 食生活アドバイザー

「将来の健康のために、SOS(砂糖・油・塩)に気をつけたいと思います。1日3回バランスの良いごはんを食べて、間食するのを止めましょう。」



### 食生活指導を受けるサモア人

「わかっているけど、やめられないから仕方ない！みんなもそうだろう？」  
「おなかいっぱいになって寝るのが幸せなんだよ」  
「今は元気そのものさ。心配ないよ」  
「病気になるかどうかなんてわからないだろ？」  
「なったらその時考えればいいよ」

## 《児童の感想》

### ○4年

- ・男の人が料理を作っていてびっくりしました。
- ・日本とはちがう料理があるなんてびっくりしました。サモアの人にはたらないようにたくさん運動したほうがいいと思いました。
- ・サモアの食べ物がどんどん変わって伝とう的な食べ物がへっていることがわかりました。
- ・サモアの食べ物が変わっていつているのがわかりました。スーパーには外国のものばかりでびっくりしました。ウムのごはんがおいしそうでした。食べてみたいです。サモアにも行ってみたいです。

### 命をはぐくむ食 ～ところ変われば食も変わる～

サモアは一日二食だけごはんを食べて間食をするんだと分かりました。ノルサミというごはんはココナツミルクの葉で作るのがすごいと思いました。料理は男の人が作るんだと思いました。サモア人はこうも食やたりするのよと食やたりなと思いました。サモアは日本と違ってちがうなと思いました。



○5年

- ・料理を作るのに半日くらいかかっていたので大変だと思いました。輸入品はさとうがたくさんはいつていたり、薬も使われていると思うと、伝とうを守って、昔ながらの料理がいいと思いました。
- ・サモア人はこういう風な食事をしているから太るんだなぁと思いました。自分のふるさとの食材をたっぷり食べることで栄養がとれて、りっぱに育つんじゃないかなとサモア人に伝えたいです。
- ・輸入食品が多くなったので太ってしまったことがわかりました。海や森に行って食べ物をとり、サモアの伝とうを受けつぐ人がふえてほしいです。
- ・サモア人はひまな時間があったらいろいろな運動をすればいいと思いました。油っこいものを食べずに、栄養のあるものを食べると病気にならないから食べてほしいです。
- ・サモアの食べ物は日本のようなものかと思っていました。サモアはとても大変な料理法で日本の機械が貴重だとわかりました。昔と今の料理は変わってきています。昔は油の多いものを食べてはいなかったそうです。今の食事のようにカップラーメンではなく、昔の伝とう的な食事をしてほしいと思いました。

**3 使用した教材**

〈教材1〉カードアクティビティ  
(左：サモア、右：日本)

あぶらっこい料理が多い	イモ・肉中心の料理	給食が多い	あっさりした料理が多い	バランスの良い料理	給食がある
食事をとる時間が決まっていない	食事の回数は1日2回	料理は男の人が作る人が多い	食事をとる時間が決まっている	食事の回数は1日3回	料理は女の人が作る人が多い
料理を作るのに半日ほどかかる		台所は家の外にある	料理を作るのに1時間ほどかかる		台所は家の中にある

〈教材2〉パワーポイント（一部抜粋）

**UMU (ウム) の作り方**



ヤシの実の殻に火をつける。

**バルサミの作り方**



タロイモの葉を重ねて、ココナツミルクがこぼれないようにしっかりとつむ。

**メイドイン サモアをさがせ!**



サモアの首都のスーパーには外国製の商品ばかり並ぶ。

**伝統的な食文化が壊れてきている!**



その結果、大変な問題が起こりました。

**肥満大国サモア!!**



国民の8割が肥満!  
さまざまな生活習慣病 (高血圧、糖尿病、脳梗塞、心臓病)  
原因は、食習慣にも。

**昔ながらの食生活が健康的!**



■ 地産地消  
■ 旬を味わう  
■ 1日3食でカロリーを摂取する (間食しない)

〈教材3〉サモアBOX (JICA関西より貸与)



## 6 時限目 ▶▶▶ 「しあわせのヒミツ～サモアからのおくりもの～」(5年)

### ねらい

- ・サモアと日本の生活を比較することで違いを知り、豊かさには種類があることを理解できる。  
また、自分にとっての豊かさ(幸せ)とは何かを考えることができる。

### 1 子どもの活動の流れ

- ①サモアってどんな国？
- ②「しあわせ」を感じるのはどんな時？
- ③日本とサモアの良い点・問題点を分類しよう
- ④物質的な豊かさと精神的な豊かさとは

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇5年児童にとって総まとめといえる4回目の実践授業で、サモアの国民性や伝統文化、食生活などが次々と発表でき、これまでの実践授業が児童にとって興味深いものであり、理解が深まっていたことがわかった。
- ◇それぞれの国には良い点・問題点の両側面あり、どちらの国が良いとは決められないが、自分や周りの人の幸せのためには、良い点を心がけていけばいいということに気づけたようである。
- ◇日常生活で幸せについて考えたことのなかった児童にとって「しあわせとは何か」の題材は少し難しかったようである。活発な意見発表までには至らなかったが、児童なりに「しあわせ」について真剣に考える時間になった。外に目を向けることで初めて気づく自分を取り囲んでいる環境に感謝したり、改善点を見つけたりできたことは、将来グローバルな人材になる第一歩となったのではないかと思う。



便利ではない生活の中でも、サモアの人々はどのようにしていつも笑顔で幸せそうなのでしょう？

しあわせのヒミツってなんやろう？

「しあわせ」と「うれしい」はちょっとちがうよ！

#### 《児童の感想》

- ・サモアが笑顔で話をするのがいいと思いました。日本も笑顔だと思うけど、サモアのように明るくはありません。日本の技術がどれだけすぐくても、明るく、幸せでいることが一番のくらしのよさにつながると思いました。幸せに生きるためには、協力が必要だと思いました。日本も今より幸せになるといいです。
- ・心の豊かさとはこういうことなんだなあこの

今日の授業で思えたこと感じたこと

小原 香凛

日本もサモアも思いとこといいところがある。  
私は最初日本が一番いいくらいだと思っていた。  
でも、今日の授業で私は気づいた。  
サモアはくらしやすい生活をしているわけはない。  
でも私は、サモアの方が毎日楽しいと思う。私は、  
今日の授業で、くらしやすい生活よりも、心の豊かさ  
の方が大切だと分かった。

授業を通して1番心にじ〜んとききました。幸せに生きることについて、いじめをしない、助け合うことが大事だと思います。

- ・ 写真をとる時も幸せそうな表情でうつっていました。サモアは便利なものは日本と比べてないことがわかりました。でもサモアはみんなで協力しているので、日本はもっと協力が必要だと思いました。
- ・ みんなで助け合い、協力して何でもして、ホームレスもないのですごいなと思いました。食べ物で困っているとき、自分の分を少し分けてあげるなんてサモアの人はずっと親切だと思いました。
- ・ かべのない家なので、誰でもOKという国でした。みんなで助け合って、笑い合うのはとてもいいことだと思いました。その心の豊かさが幸せにつながるものがよ〜くわかりました。
- ・ サモアの人たちはとてもいい人だと思いました。みんなでいろいろなことをするのが幸せと言っていたからです。日本人はお金やゲーム等自分のためのことが幸せだと言っていたけど、サモアの人たちはちがいました。幸せとはみんなでいることだと思いました。サモアの人になりたいと思いました。
- ・ サモアの人たちのいいところは困っている人を助けるところです。それをまねしてできるようにしたいです。
- ・ 日本では便利な事がたくさんあるけど、サモアには心がよくなるような村の人がいて、とても幸せだと思いました。歌やおどりで村の人全員と仲よくできたり、なやみを相談できたりするので、とても良いと思いました。日本では事件や自殺などがすごく多いけど、みんなサモア人みたいに心を豊かにすることでそういう事が少なくなっていくと思いました。
- ・ 物じゃなくて気持ちだと思いました。いくら物がたくさんあって便利でも、物がなくて困っていて助けたり、協力したりする気持ちが大切だと思いました。「1人じゃなくて、みんなで」の言葉。助けること、協力することなどがしあわせの1つだと思います。助けること、協力すること、思いやり、親切にすることを大人になってもその気持ちを大切にしていきたいと思いました。

### 3 使用した教材

〈板書〉



## 全体を通して

### 1 所感

調べても情報のなかなかなか得られない世界に飛び込むことに多少の不安があった。訪れてみると想像とは違い、サモアは飢餓や凶悪犯罪、感染症の恐怖など開発途上国にみられる、生きていく上での困難感が少ないと感じた。肥沃な土地と気候のおかげで働かなくても食べていけることが大らかな国民性を作り上げているのではないかと思った。そして、所有の概念がないことがサモアの人々の価値観や生活様式の根底にあるとわかった。よく言えばシェアの文化だが、計画性がなかったり、貪欲さに欠けたりするので、開発にはブレーキとなっていることがわかった。

しかし、特に精神的な面では日本人より豊かのように見え、見習わなくてはならないと思う部分が多くある。確かに不便なことも多いが、人々は常に笑顔で困難感を示さないのが、サモアの人々は本当に開発を望んでいるのか、今の生活で“enough（十分）”だと思っているのではないかと感じた。自然と共生し、結束の強いコミュニティの中で生活が完結している。便利になりすぎた故に人間関係が希薄になってしまうこともあるとしたら、果たして開発は必要なのか？そう思うほどサモアの人々はいつも幸せそうに映った。また、サモアの人々が大切にしている歌や踊りは本当に素晴らしい。声が空間を振動させ、心にまで届き、自然と涙がこぼれる。芸術には訴える力があり、言葉がなくても心が通い合うことを体感できた。これから大切にしていきたいことは何か、幸せとは何かと自問自答した現地研修となった。自校での実践授業では、養護教諭である為、学級担任に理解と協力を得て時数を確保し、打ち合わせをする時間を設けなければならないので、単独では行えない点が難しかった。しかし、TTで行えるというメリットがあり、授業にメリハリをつけたり、ストーリー性を持たせたりすることができ、児童は展開を期待しながら主体的に参加する事が出来たのではないかと思う。また、特定の学年に限定せず、全校児童に向けて学級別で国際理解教育を進められたことは良かったと思う。発達段階や学習到達度の異なる児童に同じ内容が理解できるかどうか心配はあったが、説明に少しずつ変化を持たせれば、学年に応じた学びになるとわかった。低学年でも補助なしでカードアクティビティも参加することができた。児童は「発展途上国」というマイナスイメージを強く持っていたようだが、経済においては日本より発展していないかもしれないが、人々の心の豊かさや絆、独自の文化の継承、芸能に長けているところなど、サモアの素晴らしさを感じることができ、一面からではなく、多面的に外国を見つめる目が養えたのではないかと思う。また、違いだけに注目するのではなく、日本と似たところがあるという気付きを持たせた児童が多くいた。世界には多様な生き方、価値観を持つ人々がいることを理解し、ありのままを認められることは人権教育の基礎になるのではないかと感じた。また、異国への興味関心が高まり、多くの児童が自分の目で見たい、体験してみたいと感じられたことから、今回の国際理解教育がグローバル人材を育てる一助になったのではないかと思う。

### 2 参考文献・資料

- 1) JICA北陸『平成25年度教師海外研修報告書』
- 2) JICA関西『2012年度教師海外研修報告書サモア』

